

健康づくりの推進を目指して 29人に委嘱状を交付

4月22日、健康推進員20人、心の健康サポーター2人、食生活改善推進員（ヘルスマイト）7人に委嘱状が交付されました。任期は、4月1日から平成28年3月31日までの1年間。それぞれ、各種検診のPRや自殺対策の啓発、食育など健康づくりに関する活動を行います。



各健康推進員の皆さん。今回で健康推進員が63人、こころの健康サポーターが39人、ヘルスマイトが41人になりました

霧島・硫黄山の規制が解除 県道1号線が通行可能に

5月1日、昨年10月に発令された硫黄山周辺の火口周辺警報が解除され、県道1号小林えびの高原牧園線が通行できるようになりました。これにより、小林～鹿児島～えびの間の通行が可能に。これから行楽シーズンを迎え、観光客の回復が期待されています。



規制解除となった県道1号線。警報は解除されましたが、硫黄山は活火山ですので、引き続き火山活動の動向にはご注意ください



毎年、4月29日（昭和の日）に開催される薫風杯。剣道を通し、子どもたちの心身の鍛錬と健全育成を目的に開催されています

青葉が薫る須木に 少年少女剣士471人が集う

4月29日、第27回薫風杯剣道大会が須木地区体育館でありました。県内外の小・中学生ら42団体116チーム、471人が参加。市内からは7団体12チーム、50人が出場し、熱戦を繰り広げました。結果は、三松剣道スポーツ少年団が1・2年生団体の部で3位に入りました。



平成27年国勢調査小林市実施本部設置にともない、本庁正面玄関前に看板を設置。調査は、9月初旬から始まります

国勢調査の実施本部を設置 調査は9月から始まります

5月1日、全国一斉に行われる国勢調査の小林市実施本部が設置されました。国勢調査は、少子高齢化の進行や人口減少などの最新の事態を明らかにし、今後の国や市の政策の推進に欠くことのできない重要な資料となります。調査は10月1日現在で、全世帯対象となっています。ご協力をお願いします。



2



3

Photo1 間近で迫力を楽しむことができる「ままこ滝展望台」。2 特設売店では、山菜以外の須木の特産品も販売。3 タケノコを的に、輪投げを楽しみ子どもたち。

コラーゲン・うまみたっぷり チョウザメカレーが誕生

4月28日、チョウザメ料理第3弾「チョウザメコラーゲンカレー」が誕生しました。手軽に買えるチョウザメ料理のお土産として、「いこいの家」（坂本宇一郎社長）と、宮崎市の食品加工会社ニッチフーズが共同開発。1パック580円で、チョウザメ料理を提供する市内8店舗で販売されています。



賞品発表会でPRする坂本社長（写真中央）ら。カレーは魚肉入りで、チョウザメを煮出して抽出したコラーゲンがたっぷり含まれています



1

山菜・タケノコで須木をPR 山菜とたけのこ祭り開催

4月29日から5月6日にかけて、「山菜とたけのこ祭り」がすきむらんどでありました。地採れの山菜などを味わえる特設売店が並んだほか、タケノコ輪投げ、竹馬づくり教室や山菜の食に関する講座などタケノコと山菜に関するイベントを実施。また、ウォーキング大会では、新しく整備された「ままこ滝展望台」をコースに入れて、参加した人は笑顔で汗を流していました。



満開を迎えたじゅうたんのようなポピー畑を歩く来場者。連休中は、フォトフレーム作りやガーデニング教室なども開催されました

25万本の花々に3万6千人 生駒高原でポピーまつり

花の駅生駒高原で4月18日から5月17日にかけて、ポピーまつりが開催されました。広さ約16畝の園内ではオレンジ、白や黄色のアイスランドポピー、カリフォルニアポピーなど約25万本が満開。まつり期間中は、園内にご当地グルメの屋台や物産展などが並び、歌や太鼓、吹奏楽などのステージイベントも行われました。

小林小の児童らホタルに興味津々

5月12日、小林小3年生120人を対象にしたホタル授業が行われました。商工観光課の職員がホタルの一生やオスとメスの見分け方などについてクイズを交えながら説明。児童らは「えさは何ですか」、「どうして光るの」などホタルに興味津々な様子でした。



食の安全、自然を考える「アースデイ」

5月9日、安全な食や自然の大切さなどを知って楽しむイベント「アースデイ宮崎」が生駒高原コスモホールで開催されました。東京から市内に移住した実行委代表の小原美幸さんが企画。会場では音楽演奏や、雑貨や食べ物の販売などがあり、家族連れで賑わいました。



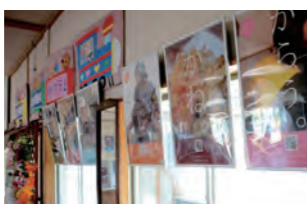
てげてげ運転を追放しよう

5月11日、交通安全キャンペーンが旧ニシムタ前でありました。交通安全協会小林支部主催で、会員ら約30人が参加し、通行するドライバーに、チラシやグッズなどを配布。同会の溝口誠二会長は「交通安全の意識を高め、1件でも事故が減ってほしい」と話していました。



西諸弁ポスターを小林駅旧駅舎に展示

JR小林駅の旧駅舎に市民や出身者などから応募のあった写真などに、方言を組み合わせせた「西諸弁ポスター」を常設・展示しています。企画政策課では、方言・写真などを受け付けており、採用されるとポスター化され、インターネットで公開されます。



瀬尾さん(写真左)と田地さん(右)。イベントで販売するほか、旬の秋には、道の駅ゆ〜ばるのじりでも販売する予定です

地域おこし協力隊が企画 エノキタケの加工品を開発

地域おこし協力隊の田地祐造さんと瀬尾絵美さんは、野尻町産のエノキタケを使った加工品「えのきのしょうゆ炊き」を開発しました。子どもにも安心して食べてもらえるよう材料は無添加。瀬尾さんは「この商品が地域活性化につながってくればうれしい」と話していました。



委嘱状を交付される脇山主任研究員。岩崎信昌教育委員長は「充実した研究が推進されることを期待します」と話していました

教育研究センター24人委嘱 教育発展のため知恵出し合う

5月21日、市教育研究センター研究員等に、市内小・中学校の教員24人が委嘱されました。今年、新たに策定された「0歳児から100歳までの小林教育プラン」の実現に向けた研究を実施。代表して細野小の脇山辰己主任研究員は、「小林の教育の発展のため知恵を出し合っていきます」と話していました。

ハーブの香りと彩りを生活に 薬草センターでハーブの祭典

5月17日、薬草、ハーブをテーマとしたイベント「ハーブ祭 in NOJIRI 16th」が、県薬草・地域作物センターで開催されました。薬草見学会、寄せ植え教室や料理教室など、薬草やハーブに関する多彩な催しを開催。会場には、ハーブ関係の商品、加工品などが並び、多くの人で賑わいました。



宮崎県薬剤師会員に説明を受けながらクイズを解く参加者。ゴールではバジルやカモミールなどのハーブの苗が配布されました

ふるさと納税早くも1億円 抽選で宮崎牛(ヒレ肉1頭分)も贈呈

今年度のふるさと納税の申込額が、4月の1カ月間で1億円を突破しました。また、5月7日には、昨年度のふるさと納税で行ったキャンペーンの抽選会を実施。期間中に応募があった人の中から84人が当選。特賞の「宮崎牛1頭分のヒレ肉」、2等の「太陽のタマゴ」など、市の特産品が贈られました。



キャンペーン抽選会。6月からクレジットカードの支払受付、姉妹都市能登町との連携賞品を追加するなど、取り組みの拡充が進んでいます



草刈り機を使い池周辺の生い茂った草を刈る参加者。まつり期間中は、普段は立ち入りが禁止されている遊歩道が開放されます

ホタル観賞しやすい環境に まつり前に出の山公園を清掃

5月8日、「出の山ホタル恋まつり」を前に、観光協会や地元業者らボランティア約70人が清掃活動を行いました。観賞客を迎え入れる環境を整えるため、草刈りやゴミ拾いを実施。観光協会小園勇副会長は「ボランティアによる保護や環境整備はとても意義あること」と話していました。



メロン部会の中岡敏彦副会長(写真左)と松田部会長(右)。今年のフェアは5月30日にのじりこびあで開催されます

『多くの人に味わって欲しい』 メロン・マンゴーの出来上々

5月19日、第4回メロン・マンゴーフェアの開催に伴って、JAこばやしメロン部会と同マンゴー部会から県産ブランドの「めろめろメロン」2玉と「太陽のタマゴ」2玉が贈呈されました。マンゴー部会の松田泰一部会長は、「今年も、メロン・マンゴーの出来はいい。多くの人に味わってほしい」と話していました。